

行動観察プログラムOBSERVANT EYEのユーザビリティ調査

ユニバーサルデザイン工芸科 ユニバーサルデザインスタッフ
株式会社ITサポート

易 強*
大前金保 古橋一哲

The usability investigation of the behavior observation software "OBSERVANT EYE"

Tsuyoshi Yi Toto, Kaneyasu Oomae and Kazunori Furuhashi

1. はじめに

マーケットの成熟につれ、類似商品があふれ、機能競争から使いやすさ（ユーザビリティ）の競争にシフトしつつある。この競争を勝ち抜くために欠かせないユーザビリティ評価は、ユーザーの行動観察に基づく記録・分析が基本となっている。しかし、正確にユーザーの行動を記録するのに、従来の手書きメモ方式では時間がかかる。この手間の要る作業を効率化するために、当所では行動観察記録プログラムOBSERVANT EYE¹⁾を開発し、2003年から無償で試用評価できるように一般公開をしてきた。本研究では、OBSERVANT EYEのユーザーにとって、より使いやすいものにするためにOBSERVANT EYEのユーザビリティ調査を行った。

2. 方法

2. 1 アンケート調査

OBSERVANT EYEの利用状況、良い点、要望などを調査する電子アンケート（Acrobat Formを利用）を作成し、登録ユーザー100名にメールで送付した。

2. 2 サーベイ

OBSERVANT EYEのヘビー・ユーザー2社に出向き、現場での試用状況や意見を主担当者にインタビューを行った。

2. 3 ユーザビリティテスト

OBSERVANT EYEの利用経験者5名に観察記録タスクを与え、OBSERVANT EYEのユーザビリティ

図1 ユーザビリティテストで使用したタスクのイメージ

テストを行い、OBSERVANT EYEを使った際のパフォーマンスや問題点を抽出した。テストでは、風呂リモコン操作のビデオ（約1分）を観察素材として、ビデオの中のユーザーの操作履歴を記録できるようにOBSERVANT EYEを設定し、観察記録を行うというタスクを実施してもらった（図1）。記録に要する時間は従来の手書きの場合の比較を行った。

3. 結果と考察

3. 1 アンケート調査結果

50社からアンケートの回答を得た（回答率50%）。

- (1) OBSERVANT EYEの観察対象：人とハードウェアが最も多かった35%（図2）。
- (2) OBSERVANT EYEの良い点：映像の見直しが容易になった、量的評価ができるようになったなど評価された（図3）。
- (3) 改善要望：被験者情報、タスク情報などの各種設定を簡単にしたいのが48%と最も多く、長

*) 現 ユニバーサルデザイン科

図2 アンケートの結果その1 (観察対象)

図6 ユーザビリティテストの様子

図3 アンケートの結果その2 (良いところ)

図7 観察記録時間の比較

順に多かった(図5)。

3.2 サーベイの結果

OBSERVANT EYEの良い点として、パフォーマンス評価する際に非常に有効である。反面、記録画面が狭く感じる、メモを入力する幅が狭い、ボタンを作成するのに煩雑に感じる、テストの全体の流れに沿ってどう記録すれば良いかわからないなどインターフェース上の率直な意見もあった。

3.3 ユーザビリティテストの結果

手書き記録に比べ、OBSERVANT EYEで記録する場合に要する時間が1/10と大幅に短縮できた(図6)。記録前にOBSERVANT EYEの設定方法に戸惑うケースが確認できたので、今後メニュー体系や設定の簡素化などのユーザインタフェースの改良が必要である。

図4 アンケートの結果その3 (改善すべき箇所)

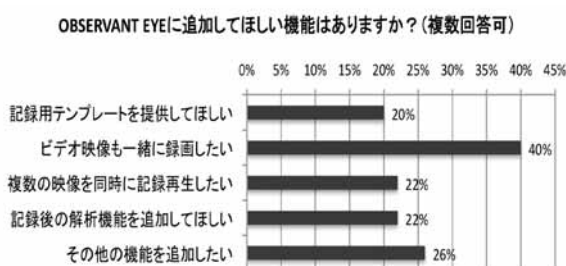


図5 アンケートの結果その4 (追加機能)

時間の動画を利用したい、設定ファイルのリンク切れを解消したいなどの順に多かった(図4)。

- (4) 追加機能要望：ビデオ映像も一緒に録画したい40%、記録用テンプレートを提供してほしい21%、記録後の解析機能を追加してほしい21%の

参考文献

- 1) 易ら, 行動観察記録を効率化するプログラム OBSERVANT EYEの開発. デザイン学研究 第51回研究発表大会概要集 p76-77,2004